



マツダ財団から助成金 有明高専の石川准教授チーム

集積回路の検証に着目した技術者教育に研究助成金贈る。自動車大手のマツダ関連の公益財団法人マツダ財団は、有明高専の石川洋平准教授の研究チームに助成金百二十万円を贈った。

石川准教授は「私たちが取り組んでいる集積回路の設計から実際に、どう動かすかを検証する教育手法が評価されました。今後は、ほかの高等教育機関にも広げていきたいと思えます」と話した。

石川准教授と電気工学科の清水暁生講師、技術専門職員の荻島真澄さんは、どの学校も「集積回路の設計は熱心に教えるが、設計した回路が、どのように動くのか検証の面では十分だったり手が回らない場合がある」ことに着目。

「開発した技術を、技術者が最後までしっかり検証することが日本の正確で精密なモノづくりにつながるのでは」と考え、設計にとどまらず、設計し出が上がったものの検証に力を入れてきた。

学習成果も上がっており、過去に開催された集積回路の設計を競うコンテストで上位入賞者が相次いだほか、ほかの高専でも石川准教授らの教育方法に着目。取り入れる学校もあるという。

石川准教授は「私たちも回路の設計に取り組んできましたが、実際にモノづくりの現場では設計にとどまらず開発者自身が検証することが重要です。ほかの学校では私たちの取

り組みは驚かれますが、優秀なスタッフと学生たちのおかげで成り立っています。今後は助成金をもとに私たちの取り組みを他校にも広げたり、機械を購入し、さらに教育レベルを高めたいですね」と語った。